

地域委員長・副委員長会議の開催結果について

日時：平成21年12月18日

場所：川口町交流体験センター「やまぼうし」

内容：第1部

川口町の総代6名を招待し、地域づくりの取り組み関する意見交換を実施。

- ・川口町の地域づくり活動紹介 えちご川口交流ネットREN 水落代表
- ・長岡市の取り組み紹介
「はちすば通りについて」 和島 竹内委員長
「コミュニティづくりについて」 三島 片野委員長

〈その他のまちづくりについて〉

- ・川口町中山地区では、自分達の地域は自分達で守るという考えがあり、その中で国道に花を、地域に花を、沿線に花を植えるということを始めた。
何を中心にしてやるかといった時に、若者から老人まで楽しめるのは花だったので、私達の地域は花を選びました。活動している団体の一部が県から表彰を受けました。
- ・栃尾も、みんなで協力しなければできないという状況にあります。地域、地域だけではなく、全部が協力し合うところが栃尾のいいところです。一方で、外から来るといいところだねと言われるのですが、反対に外に出ないという点が困るのです。
寺泊が遠い存在だったのですが、山の子が海に行く、寺泊の子が山に遊びに来るというように、長岡市になって大きなところを見られるのも良かったと思っています。
- ・小国でもフラワーロードとしてサルビアの花を植えています。おそらく10年くらい前からですが、集落とか地域の団体が植えて管理をしています。
外から来る人達からすごいねと言われて、これからも継続していきたいという気持ちが結束した力に結びついているのかなと思います。
また、NPO法人MTNサポート（もったいないサポート）が立ち上がり、道の駅づくりに取り組んでいます。野菜などの生産販売を去年頃から始めており、地域委員の人達も協力しながら合体した中で進めて行けば農村といえども生きる道が見出せるのではないかなと思っています。

〈川口町からの地域委員会に関する質問〉

- ◎各集落の代表として総代が町とのパイプ役になっていると思うのですが、この地域委員会は全く目的を異にする方々の集まりだと理解してよろしいのでしょうか。

○事務局の説明

それぞれの地域の区長・総代は、きっちり自分の地域を管理する役を全うするということです。行政の事務の委託が主になります。

地域委員会は14人の方は地域代表ということで区長さんからの推薦で就任される方もいますし、学識経験ということでいろいろな団体の方から推薦をいただいて就任している方もいらっしゃいます。

区長・総代と違うのは、地域全体の町づくり、これからの町づくりについて自分達がどうしていくんだということを考えていただくところです。

地域委員会は議会とは違って、市長の附属機関です。役割は市からの総合計画をどう考えますかという諮問の答申があるほか、大きな役割として、これからの川口を自分達はどのようにしていくのかという話をする場ということになります。

いずれにしても大事なことは同じ町の中なので、地域委員会と区長会・総代会がいかに情報交換をして町が一つになって地域づくりをするかということが、これからの課題になると思います。

〈補足説明〉

一つは長岡市の総合計画があって、この地区はどうしたらいいんだという時に、川口はこういう町にしたらいいのではないですかという意見を言っていたかというもの。

もう一つは町づくりというと橋や川や道路を作るということをイメージしがちですが、私たちが生きていくうえでの環境を整えていく、良くすることにあります。

例えば、子供たちがのびのびと育つためにはどうしたらいいか。その場合は、スポーツを振興するためのスポーツ団体、感情面・情操面では芸術団体などが集まって、良い環境を形成していくことであり、それが町づくりです。

地域委員会はどちらかというと、そういう方々が集まって自分達ができることは何だろうと考えることです。市長がよく言われる「橋が狭いから歩道を作ってよ。子供たちが危ないでしょ。」の場合、一番簡単なのは歩道橋を作ること、でも、目的は子供たちを安全に向こうに渡らせるためだから、セーフティーリーダーというお年寄りが旗を持って子供たちを渡らせるのも一つです。そういうことを考えるのも町づくりであり、地域委員会というのは、そういうものを目指しています。

旧長岡市には、子供を見守る福祉会やスポーツの会合、生け花の会などの団体が自主的に活動し、コミュニティセンターという形になっています。それが、長岡の地域委員会みたいなものであり、町内の道路や側溝が壊れたなどの話は町内会長が受け持ち、自分達の地域を良くしようというのはコミュニティセンターを中心に活動していくことになります。行政の理想は、地域委員の方々を中心として、このような町づくりへと移行していただきたいということです。

第2部 ワークショップ

正副委員長が、4つのグループに分かれて以下の項目についてグループ討議を実施し、最後に発表していただいた。

なお、議論を深めるために配布した論点整理票を、参加者全員が作成したうえで議論に参加している。

- ①地域委員会で取り組んでいるテーマ
- ②地域委員会を運営していくうえで、工夫されていること、工夫していきたいと考えているもの
- ③地域の住民活動を活発化させていくために地域委員会で取り組むべきもの
- ④合併後のまちづくりで、取り組みが進んできたと思われること

・ワークショップの結果：別紙のとおり

項目	ご意見
<p>①地域委員会を取り組んでいるテーマをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティづくり ・地域課題の拾い出し(潜水対策・中山間地域の資源の掘り起こし) ・地域資源の掘り起こし(観光資源、遺跡、史跡の再認識) ・ケーブルテレビエリアの拡大 ・ブロードバンド化の検討 ・通学の安全、スクールバスの運行 ・ICを核とした地域づくり ・地域住民の意識高揚対策 ・地域住民の要望の聞き取り、とりまとめ ・これからの福祉と医療 ・道の駅や特産品生産体制整備 ・地産池消・体験交流・販売拠点の整備推進 ・農業、漁業、観光の連携、地域特産物のPR ・住みたいまち、誇れるまちの視点からの議論
<p>②地域委員会を運営しているうえで、工夫されていること、工夫していきたいと考えているものをお聞かせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の方が発言する環境づくり ・自由な討議、発言しやすい和の環境づくり ・地域のイベントに参加し、住民との交流の成果を委員会に伝えること。 ・ブレインストーミングの活用 (ある議題についてアイデアを出したい場合や、問題点を列挙したい場合などに、複数人が集まって自由に意見を述べて、まとめあげる手法) ・用意された議題・報告にないその他の部分で意見を引き出すよう努力をしている。 ・議事録なしのフリートークの時間の確保 ・十分な議論ができるようにすること ・各種団体の事業等への協力体制を話し合うこと ・若との交流で意見を聞き、事業に反映させること ・実践的な横断・企画提案のできる場づくり ・本庁担当課長を交えた勉強会の開催、地域内の懸案事項箇所への視察 ・委員への事前資料配布の徹底 ・委員が全会議に出席できる日程調整 ・委員会の前に、正副委員長と事務局で打合せを実施

- ・地域の行事には委員自ら率先して参加し、地域内の実情を把握すること
- ・地域の行事の実行委員会に地域委員会の代表として参加、協力すること
- ・地域住民や区長会、地域の活動団体との意見交換を行う場づくり
- ・地域委員会の存在をPR、認識してもらうこと
- ・地域委員会自ら地域現況を知り、市政に情報提供できる仕組み
- ・他地域との交流
- ・継続事業だけでなく、新しい事業に取り組んでもらう環境づくり
- ・地域の事業への補助金支援、地域づくりへの専門家アドバイザー支援
- ・地域づくりのリーダー発掘
- ・地域活性化のために活動している集落や団体を地域委員会として認知し、活性化策を講じる仕組み
- ・一般住民の意識、関心の掘り起こし、地域委員が、自らの集落の活性化させることが大切
- ・分科会テーマを委員から提出してもらうこと、身の回りで手をかければ良くなるものを議論していくこと
- ・将来ビジョンを示し、住民全員参加の地域コミュニティの推進
- ・特産品の開発、生産、販売の促進、道の駅などのNPO支援
- ・地域の優れた工芸・銘産品への地域認証制度の創設
- ・ボランティア団体が抱えている問題点への支援(人員確保、後継者など)
- ・担い手育成による耕作放棄地の有効利用
- ・ウオーキングコースの整備、利用者へのPR
- ・雪を利用した冬季間のイベント
- ・工場跡地への企業誘致

③地域の住民活動を活性化させていくために地域委員会で取り組むべきものをお聞かせください。

- ・生活環境の整備(圃場整備、道路整備、下水道整備、体育施設の全利用など)
- ・高速インターネット環境の整備、ケーブルテレビのエリア拡大(一層の拡大を期待)
- ・市全体の動きが見え始めてきた。(遊休施設の活用など)
- ・都市計画マスタープランの地域展望づくり
- ・住民の不安感が安心感に変わって、何か行動的に動くことができる意識が芽生えてきている。
- ・交流人口が増え、住民におもてなしの心が芽生えてきたこと。
- ・事業イベントの充実、住民参画の地域コミュニティ
- ・地域コミュニティ事業、越後長岡ツアーマナー
- ・地域の活性化につなげる環境づくりの整備(観光拠点の整備、情報発信など)
- ・まちづくり協議会が立ち上がり、住民参加による地域の盛り上がりが出てきた。
- ・市民の考え方が少しずつ変わってきたこと(例:まずは自分たちが汗をかく)
- ・広域的に地域づくりの交流が図られ、地域主導の活動意識の改革が進んできた。
- ・同じような活動をしている団体や地域の情報が得やすくなり、これらの団体が集まり、情報交換の場づくりが進んできた。
- ・小学校統合により、大人、子どもが仲良く情報交換できる雰囲気醸成されてきた。
- ・地域の資源(旧跡、史跡など)の再確認が進んできた。
- ・農村振興等の専門的な行政対応方針等に関する情報サービスが充実してきた。

④合併後のまちづくりで、取り組みが進んできたと思われれることをお聞かせください。